

平成17年度 第21回 教育研究審議会議事要録

日 時 平成18年1月10日（火）13:30～15:30

場 所 北方キャンパス本館 E701 会議室

出席者 <委員> 矢田学長、棚次副学長、国武副学長、羽田野事務局長、乗口外国語学部長、近藤文学部長、齋藤経済学部長、小野法学部長、谷村社会システム研究科長、赤塚学生部長、迎全学教務主事、山崎（克）産業社会研究所長、山崎（勇）国際教育交流センター所長

配布資料

- 1-1～2 教員採用選考報告書
- 2 異文化言語（〇〇語）教育担当教員制度の制定について
- 3 北九州市立大学学則新旧対照表
- 4 産業社会研究所のあり方分科会報告書
- 5 昇任人事選考方法の改善
- 6 アジアの環境技術者育成のあり方について
- 冊子 学部学科再編、学部の課題、今後の方向性について
各学部意見（外国語学部、経済学部、文学部、法学部、国際環境工学部）

（冒頭、第20回教育研究審議会議事録（案）について確認）

第1号 教員の採用について

* 法学部4月採用人事（地域統合論）について、選考委員会から、採用候補者（五月女律子氏、現在藤女子大学文学部助教授）の選考結果の報告がなされ、同報告に基づき、採用候補者の採用について提案。

（採用候補者について多様な意見が出され、慎重な審議がなされた。）

【議長】 候補者を採用してよろしいか。

【委員全員】（異議なし）

* 国際環境工学部4月採用人事（流体工学）について、選考委員会から、採用候補者（宮里義昭氏、現在九州大学大学院総合理工学研究所助教授）の選考結果の報告がなされ、同報告に基づき、採用候補者の採用について提案。

（採用候補者について多様な意見が出され、慎重な審議がなされた。）

【議長】 提案について承認してよろしいか。

【委員全員】（異議なし）

第2号 語学教員制度の改正について

* 語学教師制度を改正し、資料2のとおり異文化言語教育担当教員制度を提案。

【議長】 提案について1月19日(木)までに、各学部等から意見・質問を提出いただき、次回教育研究審議会にて審議することとしてよろしいか。

【委員全員】(異議なし)

第3号 旧カリキュラム課程学生の復学の取扱いについて

* 再入学制度改正に伴う学則の改正について、資料3のとおり提案

●規則にいう学力試験の内容はどのようなものか。公的英語資格の有無・スコア等を学力試験に替えてもかまわないか。

○学部のカリキュラムの履修・習得に必要な学力の有無を確認する趣旨である。資格によって確認可能であれば問題ない。

【議長】 提案について承認してよろしいか。

【委員全員】(異議なし)

第4号 産業社会研究所のあり方分科会の報告について

* 第二次産業社会研究所のあり方分科会副委員長から報告

(提案の承認の後、選考委員会を設置)

○都市協会の調査機関との統合は調査研究機能の強化に繋がるため、産業社会研究所の研究分野を拡大し、積極的に取り組む。

【議長】 報告内容について承認してよろしいか。

【委員全員】(異議なし)

第5号 学部の課題及び今後の方向性について

* 学部の課題及び今後の方向性について、各学部から報告

[外国語学部からの報告に対する意見等]

○学科・専攻と所属する教員との研究分野とが適合していない現状は問題である。

●国際関係学科での英語教員免許教職課程を維持するため、学部内の教員異動を検討する予定である。それに併せて検討したい。

○今後、学部を超えた教員の異動を全学的に検討することになる。学部内で検討するのではなく、その際にあわせて検討することも考えてはどうか。

○外国語学部国際関係学科と法学部政策科学科の国際関係分野との整理は検討できないか。

●国際関係学科は外国語学部にある国際関係学科という点が独自性であり魅力である。それ故高い志願者偏差値および高い就職率を維持していると考えている。社会学系の学部

学科となった場合それらが失われる。

[経済学部からの報告に対する意見等]

- 全学的な学部・学科再編にも関係するためビジネススクールの構想案をできるだけ早く示して欲しい。
- 養成する学生像およびカリキュラム案を示していただきたい。

[文学部からの報告に対する意見等]

- 文学部比較文化学科と外国語学部英語専攻との整理は検討できないか。
- 平成5年の学部学科再編時に、文学・文化は文学部担当、語学教育（通訳を含めて）は外国語学部担当という整理を行った。文学部においてはその後、文学・文化に比重を置いた教員を採用している。しかし実際に役割分担できているかを考えると多くの問題を抱えており、何らかの整理は必要であると認識している。再編等の整理をどのような形式で、どのようなリーダーシップの下で実施していくかが課題である。
- 志願者の人気もあるので再編の必要はないのではないか。学部間の再編・整理を考えるならば文学部は「文化・文学」、外国語学部は「実践英語運用能力を高める教育」に特化すべきである、その意味では文学部に「欧米文化コース」が設けられると役割分担は曖昧になるのではないか。
- 限られた人員でどれだけの成果を上げるかという観点からも、学部・学科の構成について論議をしていただきたい。
- 外国語学部「英語英米学科」を、文学部に「欧米文化コース」を設けると、いよいよ役割分担は曖昧となる。外国語学部の「選択と資源集中」という意見とも齟齬をきたす。

[法学部からの報告に対する意見等]

- 産業政策や福祉などは、政策科学科一学科のみで取扱うのではなく他学部の教員も参加して、学部を超えて学生が選択できるようにすべきではないか。
- 基盤教育センターの専任教員になる者の後任補充の取扱いは今後の課題である。

[国際環境工学部からの報告に対する意見等]

- 大学院博士前期課程に新設する環境人材育成コースのターゲットはどのように考えているか。
- アジア各国からの自然科学的知識を持った留学生を英語で育成という方向になる。これまで検討してきたMOTとは異なるものとなる。

[その他の意見]

- 基盤教育センターについて、十分な教員を配置し、強力な語学教育、基礎教育をできるような体制・組織を構築することが必要である。
- 大学、学部・学科に対する本当のニーズを把握するべきである。
- 学部・学科別、学問領域別にニーズ把握するのではなく全学的に高校にヒアリングする等の手法の検討が必要である。
- 社会的に即戦力になる人材の育成、専門教育は学部教育で完結するものではない。大学

院修士課程までの接続を考えた教育を考えるべきではないか。

【議長】本日はフリーディスカッションとして、各学部の意見の把握、問題提起・論点整理を行った。今後、具体的な検討の仕方・進め方を検討し、論議していくものとしてよろしいか。

【委員全員】（異議なし）

第6号 平成18年4月昇任人事の選考方法について

* 平成18年4月昇任人事選考方法について、資料5のとおり提案

【議長】次回以降、各学部等の意見を踏まえながら検討するものとしてよろしいか。

【委員全員】（異議なし）

報告

- ① アジアの環境技術者育成のあり方について国際環境工学部から報告があった。
- ② 次回の審議会を1月24日（火）に開催する予定である旨、事務局から説明があった。